

2019年度

事業計画書

公益財団法人 NHK交響楽団

はじめに

2019年度、当団は前身の新交響楽団として創設して以来93年目を迎える。日本有数の歴史を持つオーケストラとしての良き伝統を継承、発展させるとともに、世界の優れたオーケストラに伍する存在感を示す活動に取り組んでいく。キーワードは「国際化」と「インターネット」である。

首席指揮者として5年目のパーヴォ・ヤルヴィ、今年92歳となる桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットをはじめ、世界的な指揮者達による54回の定期公演は、今年度も意欲的なプログラムをそろえて聴衆の期待に応えていく。また、日本各地での演奏会を積極的に行いオーケストラの生演奏の魅力を全国に届けていく。

昨年度の外国公演は、日越外交関係樹立45周年を記念したベトナム公演、香港アートフェスティバルでの香港公演とアジアの聴衆に向けて演奏を披露した。今年度は、3年ぶりとなるヨーロッパ公演を2020年2月から3月にかけてパーヴォ・ヤルヴィとともに7か国9都市で行う。前回の公演は現地で圧倒的な高評価を受けており今回もそれに匹敵する成功を目指す。

また、NHKと連携してNHKのテレビ国際放送で全世界に向けて放送する機会を増やしていく。

インターネット活用はこれからのオーケストラにとって必須である。場所や時間を問わずに楽しめる演奏会のネット配信は、2017年度から始めており今年度はさらに拡大していく予定である。チケットの販売や演奏会情報の発信ツールとしてもインターネットを広く活用し、お客様の利便性向上を図ったり、ファンの皆様とのコミュニケーションを深めたりして、新たな客層の開拓、安定した公演収入の確保に繋げたい。

いよいよ来年にせまった東京オリンピック・パラリンピックは、国内外にむけた文化発信としても絶好の機会である。NHKや関係団体と連携しながら放送やイベントに積極的に参画するとともに、様々な催しがさらに本格化する来年度にむけて準備に取り組む。

1. 演奏計画

(1) 定期公演

NHKホールでのAおよびCプログラムは18プログラム36公演、サントリーホールでのBプログラムは9プログラム18公演で、合計27プログラム54公演を行う。

公演の主な内容は以下の通り。

(2019年)

【4月】 3人の個性的な指揮者が登場。Aプロは当団初登場、チェコ生まれのヤクブ・フルシャがヤナーチェクの《シンフォニエッタ》などを演奏する。Bプロは下野竜也がグルズマンとショスタコーヴィチの《ヴァイオリン協奏曲第1番》を共演、Cプロは3年ぶりの登場となる山田和樹が平尾貴四男、矢代秋雄の邦人作品などを指揮する。

【5月】 Aプロはオランダの巨匠エド・デ・ワールト。自身が世界初演したジョン・アダムズの《ハルモニーレーレ》を取り上げる。B、Cプロは、当団首席指揮者パーヴォの父ネーメ・ヤルヴィが指揮する。Bプロではサン・サーンス《交響曲第3番》などフランスプログラム、Cプロではトゥビン《交響曲第5番》といった北欧作品などを演奏する。

【6月】 2018-19シーズンの締めくくりは、首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィが、Aプロでデンマークの作曲家ニルセン《交響曲第2番「4つの気質」》などを、Bプロではメシアンの大曲《トゥランガリラ交響曲》を、そしてCプロではブルックナー《交響曲第3番》を指揮する。

【9月】 新たなシーズンは、首席指揮者に就任して5シーズン目となるパーヴォ・ヤルヴィで幕を開ける。Aプロは、ルトスワフスキなど今年日本との国交樹立100周年となるポーランドの作曲家の作品を揃えたプログラムを披露。ヴィニャフスキの《ヴァイオリン協奏曲》ではジョシュア・ベルと共演する。Bプロではシベリウス《交響曲第7番》をはじめとする北欧作品を、Cプロではマーラー《交響曲第5番》などを指揮する。

【10月】 Aプロは、井上道義がグラスの《2人のティンパニストと管弦楽のための協奏的幻想曲》を当団ティンパニ奏者と共演する。毎シーズン登場しているトゥガン・ソヒエフは、Bプロでドビュッシー、後150年となるベルリオーズといったフランス音楽を、Cプロではラフマニノフ、チャイコフスキーなどのロシア音楽を指揮する。

【11月】 桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットが3つのプログラムを指揮する。Aプロはピーター・ゼルキンとレーガーの《ピアノ協奏曲》を共演。Bプロはベートーヴェンの《交響曲第3番「英雄」》、Cプロはモーツァルトの《ミサ曲ハ短調》など、オール・ドイツ・プログラムである。

【12月】 30～40歳台の俊英3人が登場する。Aプロは指揮者として当団初登場の鈴木優人がメシアン、コレリ、メンデルスゾーンなど古今の作品を、B定期はスペイン出身パブロ・エラス・カサドが、リムスキー・コルサコフの《スペイン奇想曲》などを演奏。C定期はベネズエラ出身のディエゴ・マテウスがベルリオーズの《幻想交響曲》をはじめとするプログラムで当団と2度目の共演をする。

(2020年)

【1月】 クリストフ・エッシェンバッハがおおよそ2年ぶりに登場。Aプロではマーラーの《交響曲第2番「復活」》、Cプロではブラームス（シェーンベルク編曲）の《ピアノ四重奏曲第1番》などを指揮する。Bプロは、ファビオ・ルイージがこちらもおおよそ3年ぶりに指揮台に立つ。R. シュトラウスの《交響詩「英雄の生涯」》、ソプラノのクリスティーン・オポライスと《4つの最後の歌》などを演奏する。

【2月】 パーヴォ・ヤルヴィが、AプロとBプロを指揮する。Aプロでは、デンマークの作曲家エブラムセンに当団と海外の複数のオーケストラが共同委嘱した《ホルン協奏曲》をベルリン・フィル首席奏者のシュテファン・ドールと共に日本初演を行う。Bプロでは、レティシア・モレノとプロコフィエフの《ヴァイオリン協奏曲第1番》を共演する。Aプロのブルックナー《交響曲第7番》、Bプロのラフマニノフ《交響曲第2番》は、2月下旬から始まるヨーロッパ公演でも演奏する。Cプロでは、当団定期公演初登場のラファエル・パヤールがオール・シヨスタコーヴィチ・プログラムを指揮する。

(2) 特別公演

定期公演以外で当団が主催して行うもの。

今年度は、下記の公演を予定している。

① Music Tomorrow 2019 (5月28日)

優れた現代音楽作品を取り上げて、新たな音楽文化の創造に寄与することを目的とした演奏会。今回は、ジュゼップ・ポンスの指揮で第67回尾高賞受賞作品とともに、カサブランカスの《いにしへの響き》(日本初演)や薮田翔一の新作(当団委嘱)などを演奏する。

② 明電舎 presents N響名曲コンサート (7月2日)

クラシック音楽のファン層の拡大をめざした名曲コンサートをサントリーホールで開催する。井上道義の指揮でベルリオーズの《幻想交響曲》、大萩康司のギターと共演するロドリーゴの《アランフェス協奏曲》などを演奏。明電舎の協賛をいただく。

③ N響「夏」2019 (7月19日)

毎年夏に開催する名曲コンサート。モスクワで生まれフィンランドで学んだ気鋭の指揮者ディマ・スロボデニュークが、シベリウスの《交響曲第2番》や、シモン・トルプチェスキとの共演によるラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》などを取り上げる。

④ 松山公演 (7月21日)

愛媛県内の多くの企業の協賛をいただいて毎年行っている。演奏内容は、「N響夏2019」と同じ。

⑤ N響ほっとコンサート (8月4日)

夏休みに青少年やファミリー向けに行う楽しいコンサート。今回は人気若手ピアニストの反田恭平を迎える。NHKホールのロビーには楽器体験コーナーを設けて、演奏者と子どもたちの交流を図る。

⑥ ベートーヴェン「第九」演奏会 (12月21日、22日、23日、 26日)

年末恒例のベートーヴェン交響曲第9番。今回は、シモーネ・ヤングが指揮をする。

(3) 地方公演

① NHK音楽祭（10月10日）

毎年、世界の一流音楽家、オーケストラを招いて開催されているNHK音楽祭。当団は、トン・コープマンの指揮でモーツァルトの《交響曲第40番》と《レクイエム》を演奏する。

② NHKとの共催により全国各地で実施する公演

今年度は、帯広、釧路、北見、旭川、札幌、津、福井、富山、大阪の9都市で行う。

(4) 外国公演

○ヨーロッパ公演（2月～3月）

2017年以来となるヨーロッパ公演を行う。今回は2月18日に日本を出発、7か国9都市で公演を行い3月6日に帰国する。

パーヴォとの共演が5シーズン目に入りさらにスケールアップした演奏をクラシック音楽の情報発信地である主要都市で行い、当団の国際的な存在感をさらに高めることを目指す。また、パーヴォの出身国であるエストニアの首都タリンで演奏を行い、日本・エストニア両国間の友好関係にも寄与する。

・公演都市 7か国9都市（2017は6か国7都市）

タリン（エストニア）、ロンドン*（イギリス）、パリ*（フランス）、ウィーン*（オーストリア）、ケルン*（ドイツ）、ドルトムント（ドイツ）、ベルリン*（ドイツ）、アムステルダム*（オランダ）、ブリュッセル（ベルギー）

*は2017公演地

（タリンとドルトムントは当団として初めての公演）

- ・指揮 パーヴォ・ヤルヴィ（当団首席指揮者）
- ・独奏者 カティア・ブニアティシヴィリ（ピアノ）
ソル・ガベッタ（チェロ）
- ・曲目 ラフマニノフ 交響曲第2番
ブルックナー 交響曲第7番 ほか

(5) 契約公演

主催者の要望により出演する公演

「東京・春・音楽祭」やオーチャードホールでの定期的な公演など、今年度は全国各地で34公演を予定している。

(6) 放送演奏

2日間行う定期公演の初日は、毎回FMで生放送される。また、定期公演と一部の特別公演はテレビで収録、放送され、2018年12月から本放送が始まった4K・8Kスーパーハイビジョンのための収録も随時行われる。

さらに、大河ドラマ、朝の連続テレビ小説のテーマ音楽や「名曲アルバム」の録音、放送記念式典での演奏などを行う。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連してNHKが行うイベント、番組においても随時、演奏を行う。

2. 公演収入の確保と多角的な広報

2019年度の定期公演は、世界的な巨匠から気鋭の若手指揮者までN響ならではの豪華で多彩なラインナップとなっている。それぞれの公演の特色や聴きどころをわかりやすく伝え、演奏会の魅力を存分にアピールしていく。

公演収入の中心となっている定期会員券については、ここ数年減少傾向にある。WEBを活用した会員制度を定着させ、継続、席替の手続きの利便性をさらに高めていくとともに、高齢層に対応したきめ細かいサービスを通じて、会員の継続率の維持、向上と新規会員の獲得に努める。

一方、1回券については、2018年度、人気公演を中心に販売が伸び、定期会員の減少を補う形になっている。その一助となっているインターネット販売の「WEBチケットN響」は、利用率が70パーセントを超えており、一層の充実を図っていきたい。

広報活動は、このインターネット販売システムとともに公式FacebookやTwitterなどのSNSを積極的に活用し、指揮者やソリストを含め公演のポイントや魅力をスピーディーに発信して販売促進につなげる。また、当団のホームページをより見やすく、海外からもアクセスしやすいように刷新する。広告、チラシなどの従来型の宣伝にも注力し、幅広い年齢層にアプローチしていく。

5年間据え置いてきた料金については、2019年10月の消費税率引

き上げに合わせて改定することを検討している。

3. 社会貢献活動

NHKとの共催で全国各地の学校で行っている「こども音楽クラブ」や、病院コンサートなどを引き続き実施する。また、東日本大震災など各地の被災地の復興支援を目的とした演奏活動にも積極的に取り組む。さらに、練習所のある港区と連携した地域向け活動も行う。

首都圏で学ぶ外国人留学生を公演に招待する活動は、クラシック音楽に触れる貴重な機会として好評である。海外の方に当団を知ってもらう一助として継続する。

日本のオーケストラとして長い歴史をもつ当団の保存資料は、音楽史的に高い価値を有するものが多い。創立100周年に向けて演奏記録の整備や音楽資料のデジタルアーカイブ化に引き続き取り組む。

4. 人材育成事業

日本のオーケストラの若手演奏家の育成を目的にスタートした「N響アカデミー」は、今年度で16年目となる。これまで42人の若手がこのアカデミーから巣立ち、当団を含め日本、海外のオーケストラなどで活躍している。

2019年2月現在、9人がアカデミー生として在籍（ヴァイオリン4人、チェロ2人、トランペット1人、打楽器2人）しており、当団楽員によるレッスンの受講やリハーサル見学、楽員の指導のもとで演奏会に出演するなどの研鑽を積んでいる。今年度も継続する。

5. 特別支援・賛助会員の維持と新規開拓

特別支援、賛助会員の会費は、当団の財政を支える柱の一つである。とりわけ賛助会員の口数は一進一退を繰り返す状況が続いている。これらの支援は、経済状況や企業業績に影響されやすく、最近では東京オリンピック・パラリンピックを控えてCSR活動の比重をスポーツに移す傾向も見られる。当団の演奏活動や社会貢献の取り組みをていねいに説明し、新規会員の勧誘に努める。既会員についても、当団の活動に理解をいただきたい

がら息の長い支援をお願いしていく。

6. 多様なツールによる演奏の発信

演奏をPCやスマートフォンでより多くの人に楽しんでもらうインターネット配信は、世界の潮流になりつつあり、これに向けた試行や態勢の整備をさらに進める。すでに2017年度から、一部の公演に限って、収録した演奏のハイレゾ配信（映像、音声）を期間限定で試行してきた。2019年度は、公演数や配信の期間を拡充する方向で、提携するホールなどと検討を進めていく。

一方、新たな試みとして、動画配信チャンネルに当団の演奏を提供することを検討しており、インターネットを通じてクラシックファンの拡大に努めたい。

放送では、NHKと連携し、海外向けのテレビ国際放送「NHKワールドJAPAN」で世界に当団の演奏を発信する計画である。放送の枠組みなどはNHKと検討中であるが、番組はインターネットによるライブストリーミングでも世界各地で視聴可能であり、当団の国際化につなげていきたい。

7. 適正な業務運営の推進

公益財団として健全な財政を将来にわたって維持していくため、効率的な業務運営に努め、メリハリのある予算執行と適正な業務管理を行う。海外からの招聘費用の高騰などの一方で、クラシックファンの高齢化やオーケストラ間の競争の進展など当団をとりまく環境は厳しさを増している。今後とも経費の圧縮と収入の確保に注力し、適正な収支の維持に努めたい。

2019年4月に改正労働基準法が施行されるなど「働き方改革」は新たな段階に入った。「NHKグループ働き方改革宣言」の主旨に沿って改革を進め、長時間労働の抑止など適切な労務管理に一層配慮していく。

リスク管理のテーマとしては、顧客の個人情報の管理、外部業者との契約、ハラスメントの防止などがある。監査法人や顧問弁護士などと連携を密にし、各種会議や楽員を交えた研修会などを通じて適切な取り組みを周知し、コンプライアンス意識の醸成に努める。

8. 練習環境の整備

高輪演奏所（兼事務所）は、2015年の全面改修により、音響、空調など練習環境が大きく改善した。引き続き、必要な改修やこまめなメンテナンスを継続しながら有効に活用し、演奏能力の向上に寄与するよう努める。

将来は事務所を併設した専用のコンサートホールの建設が実現するよう、関係各方面に息長く働きかけていく。